

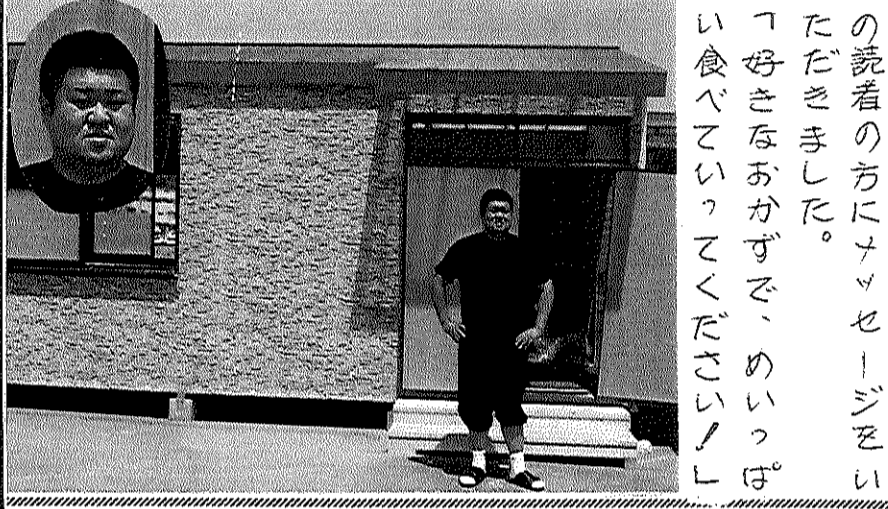
がんばるー山田くじら山ろく

好きはおかずで腹いっぱい

山田町の元浦波旅館の付近のガレキの中に立ち復興へ向けて、のろしをあげた人がいます。その名は山崎純さん。食事処「いっぷく」のご主人です。店を再開するにあたり、山崎さんほども悩んだそうです。山田町を出て、他の町で開業する事を考えた事もあったのですが、山田町の外へ出て行っては逃げるのと同じと考え、山田町の再起を固めることにしたそうです。その思いを支えたのは、山田町に住む仲間と、お客さんたちの「俺達が食べに行くから」と言う言葉だったそうです。

「好きなおかずで、めいっぱい食べていってください！」と、山崎さんから、くじら山ろくの読者の方にメッセージをいただきました。

山田町の元浦波旅館の付近のガレキの中に立ち復興へ向けて、のろしをあげた人がいます。その名は山崎純さん。食事処「いっぷく」のご主人です。店を再開するにあたり、山崎さんほども悩んだそうです。山田町を出て、他の町で開業する事を考えた事もあったのですが、山田町の外へ出て行っては逃げるのと同じと考え、山田町の再起を固めることにしたそうです。その思いを支えたのは、山田町に住む仲間と、お客さんたちの「俺達が食べに行くから」と言う言葉だったそうです。



マスが釣れた

青少年の家に避難している漁師の方がマス釣りに出かけました。朝う時に起床し、うなぎの出漁、沖をのぞき大漁することと思いきや、かばながら、マス釣りは船の後ろに竿を設置し、竿の先には鈴をつける。マスが食いつけばすぐに分かること。ギジ針を10本ぐ

ういつけた糸を引きながら船を走らせマスが食いつくのを待つ。一気に4匹も食いつくときもあるそうです。また1匹食いついた糸を引き寄せると、途中で追い食いする時もあるそうです。「魚が食いついた時の手ごたえは最高だね！だから漁師はやめられぬいぬ」と言っていました。その日の午後、大漁して帰って来ました。さっそく、釣っ

オリンピア開催

6月4日(金)山田中学校で恒例のオリンピアが開催されました。今年も、グラウンドが仮設住宅になったため、校庭での開催となりました。当日は好天に恵まれ、予定通りの競技を行なうことができました。生徒たちの応援の声や太鼓の音、競技に興じる明るい声は山田じゅうりに響き渡りました。最後の組団集会では、女の子だけでなく、男の子たちも男泣きをし、生徒たちの思の深さ、一生懸命さが伝わってきました。オリンピアとなりました。開催にあたって、たくさんの応援をいただきました。応援



豊屋の再開

尾平プラザの隣のパーマ屋さん。チャップリンに「たみ」の文字がはためいているのを「存じですか。飯岡豊店の4代目・飯岡清助さんが、5月2日から自宅で営業を再開しています。おじやまして、お話をうかがったところ、山田町以外で開業するつもりは全くなかった。でも、今この場所で作業をしているのは不安だよ。堤防もないし」と指さす先には、壊れた堤防と海津波の被害を受けた家屋の中



避難所山柳

海原を はためく日を送つ 大漁坂 朝起きて みんなの顔見て ほっとする 気づいたら 助け合いの輪 できていた 後野 寄りどびよう みんなの力で 復興を K-T



には、畳を作るための大きな機械が設置されていて、在庫の資材はわずかだったので、在庫を置く場所が無いんだよ。畳を作るのにゴミも出るし、作業場としてはかなり大変そうです。飯岡さんは「支えてくれた人達に感謝したい」と言っていました。復興へ向けて再開した多くの個人商店の皆さんと同じように、日本の家屋に必要な畳を作ることで、山田町の復興の助けとなってくれたいと思います。